

■(松平)池田冠山(定常) 鳥取の若桜藩主。佐伯藩主毛利高標・仁正寺藩主市橋長昭と共に、好学の三大名と言われた。

いけだかんざん

意次側用人・1767= 江戸で、旗本池田政勝の次男に生まれる。兄は養子だったため、実質は長男。

幼時から聡明で、

田沼意次老中1772= 5歳：

大原騒動・1773= 6歳：鳥取藩の分家西館当主(若桜2万石)が死去したため、世継に迎えられ、5代藩主となる。

黄表紙始・1775= 8歳：

雨月物語刊・1776= 9歳：能の興行が深夜に及んだ際、その苦痛に耐えさせられ、

屋敷近くで火事があった際、避難させた付人が咎められるなど、

4代鳥取藩主池田宗泰夫人だった桂香院に庇護されるとともに、厳しく薫育され、

蝦夷初調査・1785=18歳：初めて將軍家治に謁見し、

田沼意次失脚1786=19歳：従五位下縫殿頭に叙爵、*名実ともに藩主になったが、

林述斎や江戸城役所つとめの好学の佐伯藩主毛利高標・仁正寺藩主市橋長昭らと{風月社}を組織、

松平定信引退1793=26歳：

オソガ正月・1794=27歳：この頃、冠山と号する。

この間、江戸地の番衛にあたること3度、駿府城の加番となること1度。

本居宣長没・1801=34歳：*病気を理由に隠居し、以後、学問に専念。

7月船来航始1803=36歳：

学問には若い頃から心を寄せ、林述斎・佐藤一斎・松崎嫌堂らと親しく、40年余にわたって教えを受けた。冠山は庶民的で、都下の碩儒鴻匠、一技一芸ある者とよく交わった。隠居後は特に古今和漢の書や仏典を読み、著述をすることを楽しみとしていた。特に地理物産の学に興味を持ち、

高田屋拿捕・1812=45歳：

水野忠成老中1818=51歳：

蝦夷地直轄終1821=54歳：

英船浦賀来航1822=55歳：6つになった愛娘露姫が痲瘡で亡くなり、多くの人の涙を誘ったが、没後しばらくして遺書めいた手紙や和歌・発句が発見され、亡き姫をしのんでそれらを模刻して「玉露童女追悼集」を編んだ際、千5百人の人たちが詩歌を寄せていることから、その交際の広範なことが窺われる。

シボ^ノ朴鳴滝塾1824=57歳：「武蔵名所考」や「浅草寺志」などが代表的な著述である。

シボ^ノ朴追放・1829=62歳：

富籤流行・1830=63歳：*江戸大火で鉄砲洲の邸が焼け、著書の多くを失って後は、江東砂村の別荘に住み、

訪れた足代弘訓は、「伊勢の家づと」の中で、「誠に田舎めきて、御質朴なる御すまひなり。柱なども節多き麓木を用ひたまひ、御長屋にて、玄関なども、式台のかた斗なり。御居間の畳は、琉球にて縁なしなり。御火燵なし、囲炉裏なり。御食物、客をもてなし給ふも至て麓末なる味噌汁平器位の、御料理なり。御用ひの煙草、至て麓葉なり。御他出の時は、大かた御歩行にて、用人壺人、若党壺人、仲間式人位、御供也。御儉約、感にたえさる事也」と書いている。

天保大飢饉始1833=66歳：

没した。没時のことは松崎嫌堂の「嫌堂日曆」に詳しい。ほかに「護法漫筆」「思ひ出草」「南蘭草」。